日本のプロコーチ宣言第1号　榎本日出夫（日立戸塚コーチ）

私のバスケット狂書

その（3）

おにぎり持参で陸運局通い

炎天下、マイクロ・バスの獲得戦

提示された三つの条件

一度は断念したはずのものでも、現物がすぐそこにあるというものではもう負けです。自分の車の洗車もそこそこに、その中古車屋にとびこんで行き、さっそくみせて貰いました。走行距離三万八千㌔、五年落ちできちんとしたメインテナンスをした記録も残っており、信用できる乳製品会社のネームも入っていたので即座に気に入り、買う気になってしまいました。

ところが、いくら買うとこちら側でいっても、おいそれと買えない事情がこの時もちあがっていたのです。それは、マイクロバスでの事故が急激に増えてきていたために、普通免許では乗れなくなりそうな雲行きがあり、その上、搭乗者一人に二千万円の保険をかけないと、運行できないとか、いろいろ問題が出てきました。

まあとにかくなんとかなるだろうと気楽に考えて、バスの色も前述のように塗りかえ文字も分かれているのですが、私は自家用でナンバーを取りたかったわけなのですが、陸運局の方では、日立のバスケット部員をのせて走るし個人でバスを買うということは、当然運転したことになり、報酬をもらえるはずだ。だから営業用という判断をしてしまったのです。これだと税金は高くなるし、いろいろメイかき終えて、さア車検という段階になって、すべて書類も機械関係も審査を通ったのですが、ナンバープレートの色のところでストップしてしまったのです。

自家用は白、営業用は緑と、ソテナンスのことでも、大変な部分が多いので、とても今の身分では車一台持つのさえやっとなのに、これ以上はとても無理なのです。

会社の方では、買うことに対して反対でしたし、いくら自分で買ったからといって、運転するたびに、運転料をくれというわけにもいきません。まして、陸運局では日立という会社に比べて、お前さんは針でつついた穴くらいのものだ。そんな人間がなにも、世界の目立に対して白ナンバーを取って社会奉仕をすることもないだろうというような理論で、緑ナンバーを主張する始末です。

もちろんどの考え方も良く理解できるし、その方が私の経済的な部分においても、損うことは分かり切っているのですが、運転をすることで金を日立からもらおうとは思ってもみなかったわけです。

日立からも、そんな金は出なかったし、車代やおにぎりを二食分買い、十時くらいに陸運局に寄き、ちょいことくらいは分かっていたから、どうしても白ナンバーを取りたかったわけです。

しかし、これではどこまでいっても、陸運局とは考え方が平行線で、一致することはないのでは、なんとか私のマイクロバスが欲しいという、単純な発想の部分のところだけを理解してもらえたら、あるいはうまくいく、いくかも知れないと思い、それから毎日陸運局通いが始まりました。

ちょうど、私の誕生日（七月七日）が過ぎた八月の日から、朝起きると、車ででかけました。途中横浜新道の入口で、駅まやおにぎりを二食分買い、十時くらいに陸運局に寄き、ちょうど暑い盛りだったので、冷房も良くきいた室内なので、自分の家にいるより助かる、なんと良い方に解釈したりして、朝窓が始まる2時間ほど前まで粘っているのが、毎日の日課になってしまいました。

毎日通ううちに係の人や、まわりの女の子の目が、穏やかになり、駅弁を食べていると お茶を出してくれるようになったり、手があいているとあちらから話をかけてくれるようになり、大分こちらの真意が、伝えられるようになってきました。

しかし、最後のところへ話が来ると、やはり規則だからというので、どうにも進展しなくなってしまうのです。

これでは、もうダメという気持が、私の中にだんだん芽生えて来たりインターハイのスカウトなどで、一週間ほど続けて行けないことがあったりして、気分的にはもう90％ほどあきらめかけていました。そして、八月十三日の日ですが、もうこれで最後にしようと心に決めて陸運局に行きました。

行ったところ、いつもいる人が、夏休みとかでいなく、やはりついていない時はどこまでもダメだと、つい習慣的に考えてしまい、まあこれで最後なのだから、お茶を入れてくれた女の子や、周りの係の人にでも挨拶して帰ろうかと思い、重い腰を上げて、ノロノロとその動作にうつりかけました。

その時、年配の係の人が私の所へ歩いて来て、「まあ、座って話で もしょうじゃ ないか」と、部屋の隅につれていきました。そこで「彼からはいろいろ話をきいているが、君もどうしてもバスを欲しいらしい。そうしたらあまり強 情をはら ないで、会社の人と話をうまくつけてきたら」と、いって三つの条件を出してくれました。

榎本日出夫氏。日本における"プロコーチ宣言"第一号として注目され、日立戸塚コーチに就任。以来、低迷を続けていた同チームを四十六年に日本リーグ入りさせ、翌年のリーグ戦で"無敵"を誇ったユニチカを破って第三位に食いこんだ。

さらに勢いにのった同チームは昨年の日本リーグ今年一月のオールジャパンでそれぞれ優勝の初優勝、二大タイトルを握ってバスケット界の"風雲児"となった。

さらに四月の二十四、二十五日に開かれた東西選抜大会でも優勝、日本リーグ優勝候補としても最有力の存在。

"エノモト・ファミリー"としてチームの結束力も抜群のものがあり、傑出した選手は少ないが、それを補なって余りあるコンビネーションプレーの確立は、女子チームはもとよりバスケットの一方向を示すものとして注目される。

榎本日出夫

武蔵中学（東京）、武蔵高校（同）、武蔵大学（同）をそれぞれ卒業。現在、女子実業団チームの日立戸塚コーチ。昭和十六年七月七日生まれ。

〈現住所〉横浜市戸塚区舞岡町一三一四一六。

90パーセントまで諦める

次号に続く

BASKET BALL IS MY LIFE